



網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.126
2026.5



やっと成虫になりました

強面のハンター

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

立派な大顎の“マガタマハンミョウ”

肌寒い日と夏のような暑さの日が行きつ戻りつしていたある日、スキーゲレンデでマガタマハンミョウに出会いました。ハンミョウの仲間は人が近づくと少し前方に飛び、近づくとまた飛ぶことから“道教え”とも言われていますが、このハンミョウは後翅が退化して飛ぶことができません。とは言え、漢字では“斑猫”と記されるほど俊敏に動くため、これまでなかなか撮影できなかったのですが、今回はなぜか一時停止のようにじっとしています。背中中の乳白色の斑が“勾玉”に似ていることが名前の由来…と、その程度の認識しかなくともあり、腰を据えて観察してみると。目につくのは頭部の大半を占める大きな眼、その下にある地面に届きそうな側面が白い大顎、前脚の先端にある跗節（ふしせつ）と呼ばれる部分は少し太くなり、毛がびっしりと生えています。どこを見ても肉食に違いない容姿には凄みがあり、昆虫でなくとも疎んでしまします。幼虫時代はイモムシのような形で頭部には既に大顎が備わり、地面に掘った穴で待ち伏せして小さい虫などを捕食します。平均すると5日から2週間に1匹程度しか獲物にありつけないようで、そのため幼虫時代が長くなる個体もいるのだとか。厳しい環境を生き抜いてきた姿に一段と凛々しさを感じた出会いとなりました。

What is
“Magatamahanyou”?
「飛ばないハンミョウ」

ハンミョウ科
体長：約 14~15mm
分布：北海道~本州
（中部以北）、佐渡島

日本固有種。山地帯のブナやミズナラ林などの落葉樹林帯に生息し、日当たりのよい林縁部に多く見られる。小型の昆虫やくモ、アリなどを捕食。3齢幼虫まで育ち、幼虫のまま4年過ごしたという調査結果もある。

（参考図書：「ハンミョウ」他）

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



網張の モモンガ物語

協力：AMK
(網張のモモンガを見守る会)



VCパンフレット・
二代目 (2007年)



全国自然いきもの
スタンプラリー
(2010年)



国立公園 60周年記念
横断幕・三代目 (2016年)



VC記念スタンプⅡ
(2020年)

第一話「モモンガ (ニホンモモンガ)」 網張ビジターセンターのマスコットになる!

「モモンガ」という小さな生きものをご存知でしょうか? 図鑑を開いても「齧歯目リス亜目リス科モモンガ属、日中は樹洞にひそみ夜間に活動し、前後肢の間に飛膜があって滑空する」といった簡単な説明がある程度。そもそも実際に野生の「モモンガ」を見たことのある人はどれだけいるのでしょうか?

おまけに本州から九州で見られる「ニホンモモンガ」は、人里近くにも棲み生態も良く知られている北海道の「エゾモモンガ」とは別種で、その詳しい生態はほとんど分かっていません。そんな「ニホンモモンガ」が、どうして網張ビジターセンターのシンボリックなマスコットになったのでしょうか?



網張
ビジターセンター



VC記念スタンプ、
名刺等・初代 (2007年)

話は20年以上前のビジターセンター発足当時まで遡ります。まだ雪深い3月の網張の森で「野生動物観察会」を行った時のこと。講師の伊達功さんが「網張の森マザーツリー」(推定樹齢350年を超すブナ巨木で現在は枯死して見られない)の木の又で小さな黄土色のフンを見つけ「ニホンモモンガ」(以下モモンガと略)のものであることを明らかにしました。この頃は網張の森の詳しい森林構成や植生、生物分布がまだ分かっておらず、「モモンガ」がいるらしいとのニュースはビジターセンターのスタッフを大いに勇気づけてくれました。と言うのも国立公園は日本を代表する優れた風景地であるだけでなく、そこで豊かな生物多様性が守られている役割も求められていたからです。昔、網張周辺で木の伐採中に「小さなバンドリ(モモンガの地方名)」が飛び出てきたという話を、地元の方から聞いたこともあって、この森に「モモンガ」がいるという確信がいつそう強まりました。

ビジターセンターの記念スタンプを作る話が出た時も、自然に「モモンガ」をイメージキャラクターにしようということになりましたが、誰も実際の「モモンガ」を見たことがありません。絵心のあるスタッフの友人に「モモンガ」のイラストを頼みましたが、実物よりかなり胴長スマートな姿になってしまいました。

この初代「モモンガ」は、スタンプ以外にスタッフの名刺、網張の森セルフガイド、網張の森の案内板等に用いられました。

その後、網張ビジターセンター公式パンフレットが発行された際は、プロのイラストレーターによる二代目「モモンガ」が制作され、案内役として堂々と解説を行っています。2010年に全国85のビジターセンターで共同開催した、「全国自然いきものめぐりスタンプラリー」でも、網張のシンボリックな生き物として「モモンガ」が選ばれ、翌年からは網張ビジターセンターニュースレター表紙の右肩に常時姿を見せるようになりました。

イラストレーター経験のあるスタッフが新たに加わったこともあり、愛らしい三代目のマスコットキャラクターが誕生。「モモちゃん」の愛称で活躍の場を広げていく一方で、スタッフたちは「モモンガ」を実際に確認しないままに、どこか後ろめたさを感じていました。

2015年、転機が訪れました。滝沢市の鞍掛山で行われたスノーシュー行事の最中、大勢の参加者の目の前で木を登ると登る小さな灰色の姿が! 梢の先で止まってこちらを見ろす大きな眼、そして滑空。まちがいに「モモンガ」です。通常は、夜間のみ活動するはずですが、朝から雪が降り続いて日中でも薄暗かったので、うっかり出てきてしまったのでしょうか。この出会いをきっかけに、網張の森でも「モモンガ」の姿を確認しようとする試みがスタートしました。



Amihari
visitor center
ニュースレター100号記念・
四代目 (2022年)



網張 VC
開設 20周年記念
(2024年)



鞍掛山で撮影されたモモンガ (2015年)

今回は、モモンガの巣箱作り挑戦!



十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年を迎えて①

令和8年度は八幡平地域が十和田国立公園に追加指定され「十和田八幡平国立公園」となってから70周年を迎えます。今年度は70周年を記念し、国立公園や八幡平地域にまつわる懐かしい話題やエピソード、お知らせなどを6回シリーズでお届けします。

懐かしい写真で振り返る八幡平地域 『網張温泉』

ビジターセンターを訪れる年配の方から「昔はここに休暇村があったよね。確かこの辺りで温泉に浸かった記憶がある」と声をかけられることがあります。

時代を遡ると、明治20年、旧滝沢村の資産家で元県議の沢村亀之助氏がビジターセンターのすぐ前の山側台地に大釈（帝釈）温泉の名で湯治場を開設しました。これが現在の網張温泉の始まりです。宮沢賢治もこの湯に浸かったという記録が残されています。

昭和31年、八幡平地域が国立公園に追加指定され、現在の十和田八幡平国立公園に改称されます。昭和33年、雫石町が網張温泉の権利一切を買収し、昭和34年から雫石町営の網張温泉となりました。

「ボロボロの建物を寝る間も惜しんで修理し、7月1日の岩手山の山開きによく間に合った」と管理人だった村上匠さんがかつてお話し下さいました。建物は現在の日帰り温泉館に位置していました（写真1）。



（写真1 雫石町営「網張館」）

岩手山南麓開発の一環として進めていた開発運動から、まさに拳県一致体制で行われた国民休暇村の誘致運動を経て、昭和40年に東北地方で最初の国民休暇村である岩手山麓国民休暇村が開業しました。誘致活動等尽力された村井正衛氏は初代支配人として7年間勤められました。最初の建物は木造で、下の写真（写真2）は昭和61年に改装された建物です。懐かしい方も多いのではないのでしょうか。「広い階段を上ると男女の温泉が左右にあった」、「大勢で泊り、宴会も行った」といった思い出話も聞かれます。現在の日帰り温泉館は平成14年に開館し、平成17年には網張ビジターセンターが開設されました。



（写真2 岩手山麓国民休暇村「網張温泉館」の名称で改装 撮影は平成7年秋）

「この辺りで温泉に浸かった」という冒頭の記憶はどの時代だったのでしょうか。

「私と十和田八幡平国立公園」

休暇村岩手網張温泉 支配人 鎌尾 宗慶 氏

この度は十和田八幡平国立公園・八幡平地域指定70周年、誠にありがとうございます。

私にとって十和田八幡平国立公園は、単なる自然の景勝地ではなく、自分の原点を形づくった特別な場所です。学生時代、山スキーに打ち込んでいた私は、この地で二つの忘れがたい経験をしました。

一つは、八甲田連峰の縦走です。厳冬期、果てしなく続く白い稜線と、時に行く手を阻む吹雪の中で、自分の小ささと自然の大きさを痛感しました。視界が閉ざされ、不安に押しつぶされそうになりながらも、一歩ずつ進み続けた先に広がった静寂の世界は、言葉にできないほどの美しさでした。快晴に恵まれた八甲田大岳で誰からともなく始まった雪上相撲大会が特に印象に残っています。自然の厳しさと優しさ、その両方を身体で知った瞬間でした。

もう一つは、裏岩手の縦走です。八幡平から岩手山へと続くルートは、変化に富んだ地形と雄大な景観が魅力です。仲間と共に雪原を進み、時に笑い合い、時に励まし合いながら歩いた時間は、かけがえのない記憶となっています。特に、爆弾低気圧に当たり三ツ石山荘で3日間の停滞を余儀なくされ、予備食もほぼ底をついた中で網張スキー場に着いた瞬間は、今でも鮮明に思い出されます。



（晴れた日 Mitsushima山方面を望む 画像提供：岡野 治 氏）

卒業後は全国の国立公園等にリゾート施設を展開している一般財団法人休暇村協会に入社しました。10数年が経って5箇所目の勤務地として着任したのが休暇村岩手網張温泉です。着任してから20数年、不思議な縁を感じながら、そして当時のことを時々思い出しながら、国立公園を訪れるお客様へ“自然にときめくリゾート”の魅力を発信しています。

指定70周年という節目を迎えるにあたり、この地がこれからも多くの人にとって「心の原風景」であり続けることを願ってやみません。そして私自身も、これからもこの場所と微力ながら関わり続けていきたいと思っています。

▲・▼ 環境省盛岡管理官事務所からのお知らせ ▼・▲

『十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年記念フォーラムの開催について』

十和田八幡平国立公園八幡平地域は令和8年7月10日に、指定70周年を迎えます。八幡平から岩手山、秋田駒ヶ岳にかけて広がる八幡平地域の豊かな自然環境が、昭和31年の指定以来現在まで守られてきたのは、地域の皆様のご尽力あってのことです。改めて感謝申し上げます。

この指定70周年を記念して、以下のとおり記念フォーラムが開催されますのでお知らせいたします。参加は無料ですが事前申し込みが必要となっております。環境省ホームページ等をご覧ください。

【十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年記念フォーラム】

- 日時：令和8年7月10日（金）13:30～16:30
- 場所：八幡平ハイツ（岩手県八幡平市松尾寺木 1-590-4）
- 参加申込：入場は無料ですが、専用フォームもしくはFAXによる申し込みが必要です。また、申込多数の場合は抽選となります。【×切6/10】
- 内容：①基調講演：八幡平地域の自然保護と観光～好循環による価値の継承～
講師：東京大学大学院 農学生命科学研究科准教授 山本清龍氏
- ②トークショー：「山の魅力とは」 出演者：庄司智春氏、木村卓寛氏
- ③パネルディスカッション：「八幡平地域の魅力を未来へ」
出演者：山本清龍氏、庄司智春氏、木村卓寛氏、ほか地元山岳関係者（調整中）
- その他：関係市町等による出展ブースもあります。
- 主催：八幡平国立公園協会、共催：環境省東北地方環境事務所

(画像協力：岩手山地区パークボランティア)

4/5 「根開きのブナの森で春を探そう」



雨模様のため時間を短縮し、コースを網張の森に変更して実施しました。木々の根元の雪が解ける理由を考えながら根開きの様子を観察し、ムササビやモモンガの食痕も観察しました。大きく膨らんだ冬芽をつけたブナの枝がたくさん落ちている場所があり、じっくり観察しながらブナやクマ、森の繋がりなども考えました。「雪がいっぱいあるけど春は来るんだなと感じた」参加者感想より。総勢 14 名

雫石町グリーン・ツーリズム



仙台市内 4 校の中学生を雫石町グリーン・ツーリズムとして受け入れました。

散策路の美化活動やいきもの探しなど網張の森の自然に親しみました。

“ヤマアカガエル”のオタマジャクシ生態飼育展示中！

4 月 26 日に森で採取した卵塊の一部を孵化させ、幼体を水槽に移して皆さんにご覧いただいています。



『網張の花』フォトブック(改訂版)好評発売中！



網張の森やグレンデで見られる花々を開花順に紹介しています。

1,000 円 (税込)

“網張の森散策カード”始めました！

四季を通して網張の森の自然に親しんでいただけるよう、スタンプカードを配布しています。



インフォメーション

6/21(日)「網張の森さんぽ&写真入門」

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合

講師：小坂 富男 氏(写団樹景)

定員：15名 ※要事前予約

参加料：大人800円 小学生以下400円

7/4(土)~7/8日(水)

「夏の網張の森ヒメボタル観察会」

19:40~20:40 網張ビジターセンター集合

定員：各10名 ※要事前予約

参加料：一人500円



国立公園で楽しむ親子の自然体験

7/18(土)「ナイトハイクと星空観察★」

18:50~20:50 網張ビジターセンター集合

講師：高橋 智香子 氏(星の案内人)

伊藤 修 氏(星の喫茶室)

定員：親子10組20名 ※要事前予約

参加料：大人800円 中学生以下400円

8/1(土)「よるの森をのぞいてみよう！ コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ」

18:50~20:50 網張ビジターセンター集合

講師：コウモリの保護を考える会

渡辺 修二 氏(岩手県立博物館学芸員)

定員：親子10組20名 ※要事前予約

参加料：大人800円 中学生以下400円



5/17 「鞍掛山麓花愛でるハイキング」



新緑の爽やかな森を、講師より咲いている花やこれから咲く花についての解説を受けながらハイキングを楽しみました。エンレイソウは花が咲くまで10年、カタクリは7年かかると聞き、小学生の参加者は自分より先輩であることに驚いていました。また大人の参加者も自然の時間の流れに感慨深げでした。2つの花を咲かせた珍しいシラネアオイも見られました。「鞍掛山自体は何度も登っているが(観察することで)違う山のように感じた」参加者感想より。総勢 27 名

◆ビジターセンター企画展◆ -中山 大太郎 写真展- 5月1日(金)~6月30日(火)

「ちょっとレアな山の花」(5月)

岩手山には12歳から登り続けて来ました。2000年頃から自分と岩手山との関わり方が変化し、他の山も含めて植物や動物、自然の変化など多くを感じる事ができる登山を楽しむようになりました。



撮りためてきた中から「ちょっとレアな山の花」を展示することとしました。

「岩手山の表情X remember」(6月)

2024年10月からの岩手山入山規制を受け、22年間製作してきた「岩手山カレンダー」を2025年版での終了を機に撮影エピソードを「網張VCニューズレター」に掲載して頂きました。写真展をご覧になった方々から一人でも多くの方に岩手山の魅力を感じて頂けたらと思います。

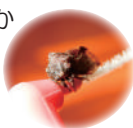


- 出展者の言葉(一部抜粋)より -

モモンガのつぶやき

今年、もう会ってしまいました。例年、野外であちこち探してもなかなか出会えない「トビイロツノゼミ」に。それも野外ではなく自宅です。いつも使っている歯間ブラシの上で。歯磨きの仕上げに歯間ブラシを手に取ると、茶色い粒のようなものがそれでした。某アニメに出てくる王蟲(オーム)のようにこんもりとしたフォルムと大きな目。まさか家の中で会えるなんて！

どのような経緯でここに辿り着いたのか皆目見当もつきませんが、一年に一度は会いたい、生きものリストの上位の一つは早々にクリアできました。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 3月 910人 ◆ 4月 919人

朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 3月 -2.9℃ ◆ 4月 3.5℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec.ne.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期 (4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時